



かすが たかし  
春日 隆司 議員

Q 1. コロナ問題は弱い立場や人々ほど大きな影響を受けます。一律支援が行われていますが、こうした方々へのきめ細かな支援が「物足りない(必要)」と感じています。どのような事態でも「物足りなさ」を少しでも和らげる、感じないような取り組みを進めなければならないと思います。

Q 2. 町全体の「活気」「勢い」「体力」の低下を加速させるコロナ問題。「不安・不満・不公平」など「不」が少しでも解消され、「元気森もり・しもかわ」を!

総力の結集に努めて、「新しい種」をまき「誰ひとり取り残されない」ための課題解決をめざします。

Q 1. 季節を感じる町内外のイベント、スポーツ大会が軒並み中止になったことに物足りなさと同時に物寂しさを感じています。当たり前と思っていた物事のありがたさを噛みしめ、まちづくりにおいて本当に必要なものは何かを見つめなおし、検証してまいります。

Q 2. 町が抱える課題は、過疎化や少子高齢化など普遍的なもの、下川の独自性によるものがあると改めて感じました。これからも議員として町民の声を集め、政策研究を進め、下川独自の原因による課題の早期解決につなげます。また、議会の活性化を通して、積極的な議会活動の実現に取り組みます。



あびこ ひろまさ  
我孫子 洋昌 議員



みのや はるゆき  
蓼谷 春之 議員

Q 1. 今年に入り、新型コロナウイルスの感染拡大が世界に広がりを見せている状況で、今後第2波3波が予想され、下川町においては、各種団体で書面総会等、町の対策本部設置での公共施設の利用制限により、町民の方々が大変不便を感じていると考えられます。これから、夏を迎え道内外への家族旅行を考えるとありますが、毎日、感染者の状況が報道されている中でコロナウイルス感染者の方との接触も考えられ、自粛を考える必要があります。

Q 2. 新たな議会体制の中で1年が過ぎました。議員それぞれの考え方がありますが、町政推進に向け町民の方々のご意見を期待し議会活動すべきであると考えます。

Q 1. ことごとく延期・廃止となる行事やイベント、行動範囲はかなり制限がされました。不要不急の外出制限・新しい生活様式。それでも、今もコロナウイルスが本町に入ってくる可能性に神経を尖らせコロナ対策をする町民の労苦があり、本町の経済も、人の動きも影響を受けました。人と人との接する機会・機運が損なわれた事は大きいです。

Q 2. がむしゃらな1年でしたがこれからのがむしゃらです。今後は町民の代弁者として町民の思いをできる限り共感し、その想いや感情でさえ、議会・審議で場の空気に吞まれる事なく発言し、行政の施策が町民により効果的な形で発現するようただし続け、そこで生じた批判や評価は私の責任において全て受け入れる覚悟を持ち、町民の判断材料となるよう目指します。



おばら よしおき  
小原 仁興 議員